

交付運用報告書

ハッピーエイジング・ファンド

 ハッピーエイジング20 ハッピーエイジング30
 ハッピーエイジング40 ハッピーエイジング50
 ハッピーエイジング60

追加型投信／内外／資産複合

作成対象期間：2018年7月18日～2019年7月16日

第19期 決算日：2019年7月16日

**受益者の
みなさまへ**

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、日本及び世界各国の株式や公社債を実質的な主要投資対象とし、中長期的に信託財産の着実な成長を目標として運用を行います。当作成期もそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

第19期末 2019.7.16

	ハッピーエイジング20	ハッピーエイジング30	ハッピーエイジング40	ハッピーエイジング50	ハッピーエイジング60
基準価額	14,179円	14,446円	14,537円	14,137円	13,089円
純資産総額	10,453百万円	12,699百万円	16,189百万円	7,592百万円	4,551百万円
騰落率*	△5.6%	△4.6%	△2.6%	△0.9%	0.6%
期中分配金合計	0円	0円	0円	0円	0円

※ 騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書（全体版）は下記の方法で閲覧いただけます。

なお、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

▶ 運用報告書（全体版）の閲覧方法


<https://www.sjnk-am.co.jp/>
にアクセス

「ファンド検索」等から当ファンドのページを表示して、
閲覧またはダウンロードすることができます。


損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル
お問い合わせ先：クライアントサービス第二部

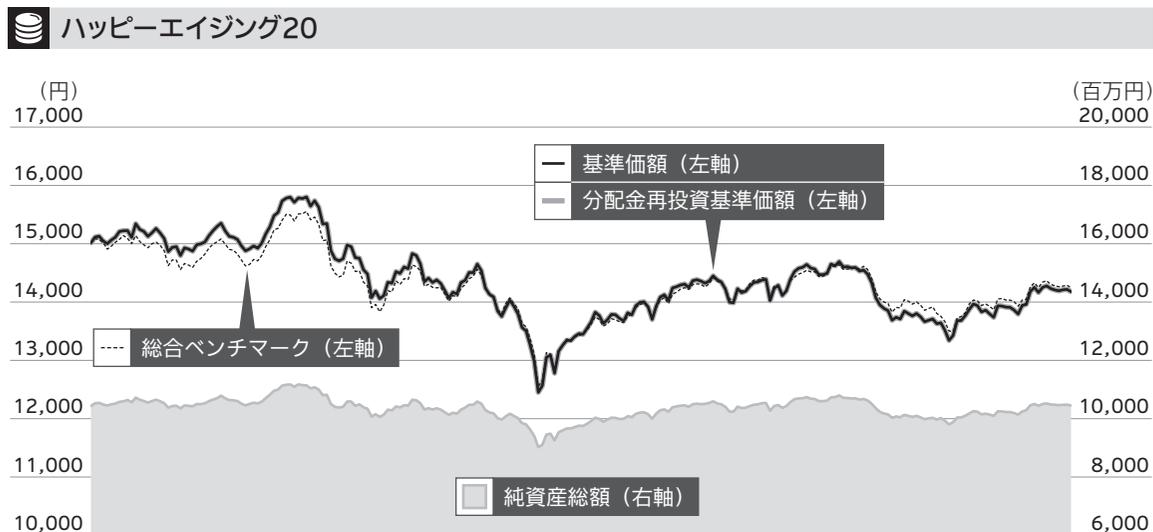
（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）



0120-69-5432

運用経過

● 基準価額の推移



第18期末
2018.7.17

第19期末
2019.7.16

第19期首

騰落率

第19期末

基準価額
15,015円

△5.6%
(分配金再投資)
基準価額ベース

基準価額
14,179円
(期中分配金)
合計0円

- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2018年7月17日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング20

当期間、投資対象である「S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド」や「S J AMスモールキャップ・マザーファンド」の基準価額が下落したことを主因に、当ファンドの基準価額は下落しました。国内株式やエマージング株式の下落が主な値下がり要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 基準価額の推移

☰ ハッピーエイジング30



基準価額の推移

第19期首
基準価額
15,148円

騰落率
△4.6%
(分配金再投資)
(基準価額ベース)

第19期末
基準価額
14,446円
(期中分配金)
(合計0円)

- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2018年7月17日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク(運用を評価するための指標)を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング30

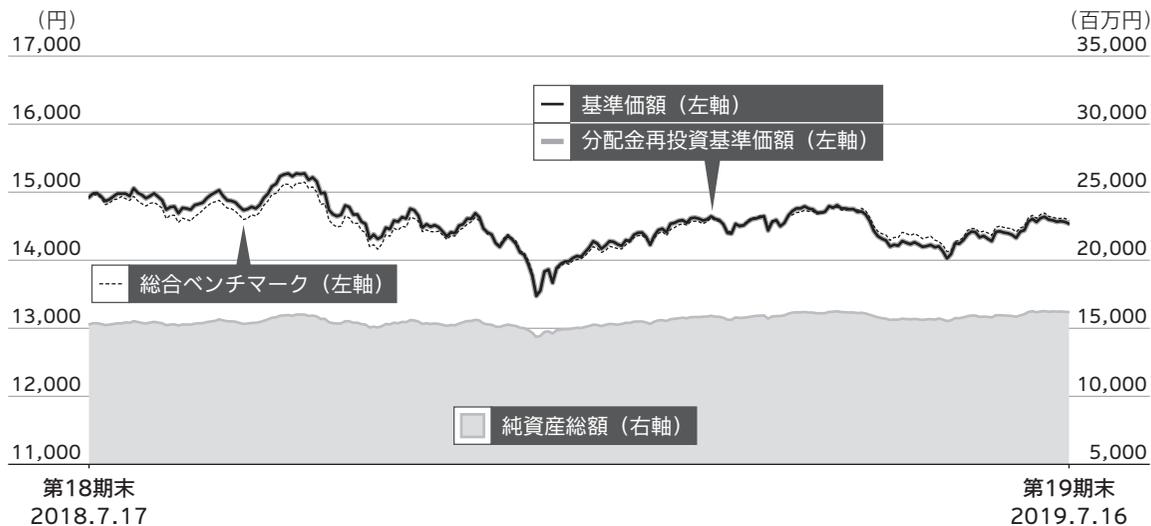
当期間、投資対象である「S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド」や「S J AMスモールキャップ・マザーファンド」の基準価額が下落したことを主因に、当ファンドの基準価額は下落しました。国内株式やエマージング株式の下落が主な値下がり要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 基準価額の推移

☰ ハッピーエイジング40



基準価額の推移

第19期首
基準価額
14,924円

騰落率
△2.6%
(分配金再投資)
(基準価額ベース)

第19期末
基準価額
14,537円
(期中分配金)
(合計0円)

- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2018年7月17日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク(運用を評価するための指標)を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング40

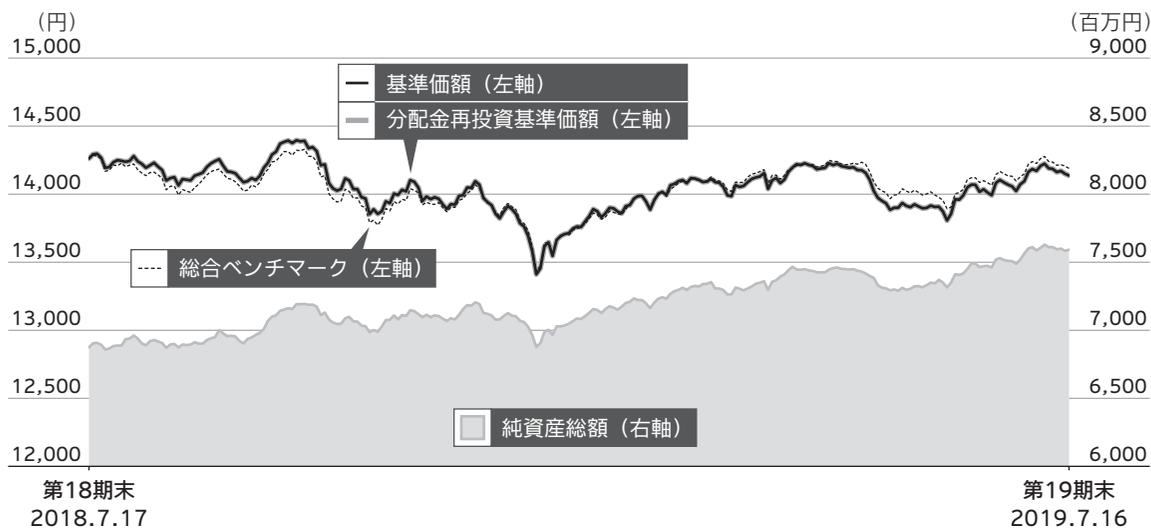
当期間、投資対象である「S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド」や「S J AMスモールキャップ・マザーファンド」の基準価額が下落したことを主因に、当ファンドの基準価額は下落しました。国内株式やエマージング株式の下落が主な値下がり要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 基準価額の推移

☰ ハッピーエイジング50



基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2018年7月17日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング50

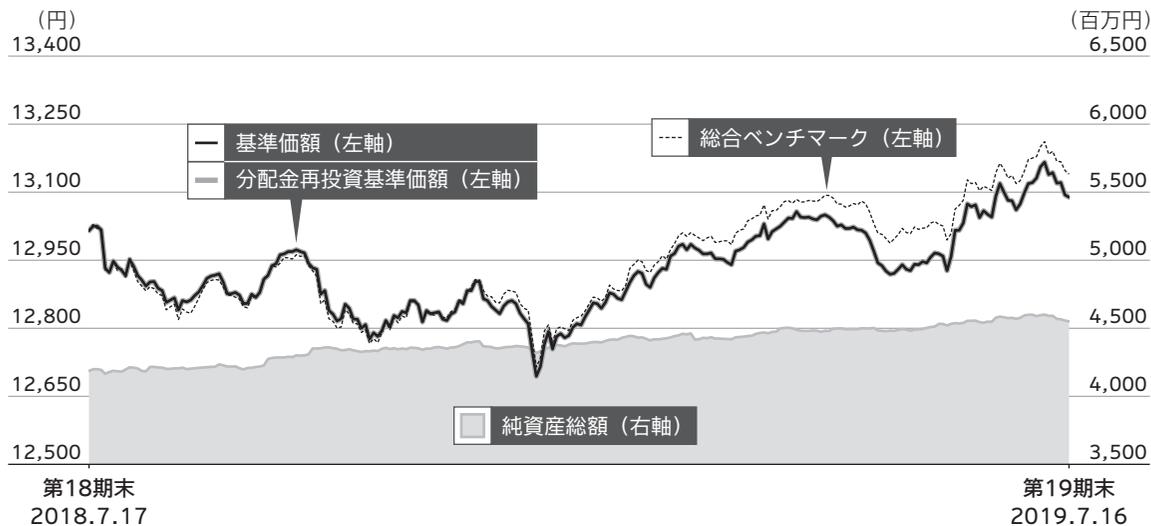
当期間、投資対象である「S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド」や「S J AMスモールキャップ・マザーファンド」の基準価額が下落したことを主因に、当ファンドの基準価額は下落しました。国内株式やエマージング株式の下落が主な値下がり要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 基準価額の推移

☰ ハッピーエイジング60



基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2018年7月17日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング60

当期間、投資対象である「損保ジャパン日本債券マザーファンド」などの基準価額が上昇したことを主因に、当ファンドの基準価額は上昇しました。国内債券の上昇が主な値上がり要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 基準価額の主な変動要因

S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド

期中の騰落率は－9.2%となりました。

当ファンドの騰落率はベンチマークを下回り、同期間の国内株式市場が下落したことから、当ファンドの基準価額も下落しました。

個別銘柄では、野村ホールディングス、三菱UFJフィナンシャル・グループ、日産自動車、日本製鉄、大和証券グループ本社などの保有銘柄が下落したことで基準価額は下落しました。

S J A M スモールキャップ・マザーファンド

期中の騰落率は－12.3%となりました。

当ファンドの騰落率はベンチマークとほぼ同水準でしたが、同期間の国内株式市場が下落したことから、当ファンドの基準価額も下落しました。

個別銘柄では、青山商事、東海東京フィナンシャル・ホールディングス、第四北越フィナンシャルグループ、エクセディ、AOKIホールディングスなどの保有銘柄が下落したことで基準価額は下落しました。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

債券の利回りが低下（価格は上昇）したことから基準価額は上昇しました。

損保ジャパン－TCW外国株式マザーファンド

期中の騰落率は＋4.8%となりました。

ファンドで保有する株式の価格上昇がプラスに寄与しました。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

期中の騰落率は+1.2%となりました。

ドルやユーロなど主要通貨に対して円高が進んだため、為替要因はマイナスとなりましたが、米国債券や欧州債券など主要国債券の利回りが低下（価格は上昇）したことから、基準価額は上昇しました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 1万口当たりの費用明細

☰ ハッピーエイジング20

期中の1万口当たりの費用の割合は **1.704%** です。

項目	第19期 2018.7.18~2019.7.16		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	227円	1.583%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は14,360円です。
(投信会社)	(91)	(0.635)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(128)	(0.894)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(8)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	14	0.096	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(13)	(0.088)	
(投資信託証券)	(1)	(0.008)	
(c) 有価証券取引税	0	0.003	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.003)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	3	0.022	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(3)	(0.017)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.002)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	244	1.704	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。



ハッピーエイジング30

期中の1万口当たりの費用の割合は**1.553%**です。

項目	第19期 2018.7.18~2019.7.16		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	212円	1.454%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は14,607円です。
(投信会社)	(83)	(0.571)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(121)	(0.829)	購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(8)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	11	0.077	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(10)	(0.071)	
(投資信託証券)	(1)	(0.007)	
(c) 有価証券取引税	0	0.002	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.002)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	3	0.020	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(2)	(0.016)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.002)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	226	1.553	

注1. 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

☰ ハッピーエイジング40

期中の1万口当たりの費用の割合は**1.364%**です。

項目	第19期 2018.7.18~2019.7.16		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	188円	1.292%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は14,564円です。
(投信会社)	(74)	(0.506)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(107)	(0.732)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(8)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	8	0.056	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(7)	(0.049)	
(投資信託証券)	(1)	(0.007)	
(c) 有価証券取引税	0	0.001	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.001)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	2	0.015	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(2)	(0.012)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.002)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	198	1.364	

注1. 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。



ハッピーエイジング50

期中の1万口当たりの費用の割合は**1.157%**です。

項目	第19期 2018.7.18~2019.7.16		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	156円	1.109%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は14,060円です。
(投信会社)	(62)	(0.442)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(86)	(0.614)	購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(8)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	5	0.034	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(4)	(0.030)	
(投資信託証券)	(1)	(0.004)	
(c) 有価証券取引税	0	0.001	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.001)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	2	0.013	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(1)	(0.008)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(1)	(0.004)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.002)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	163	1.157	

注1. 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

☰ ハッピーエイジング60

期中の1万口当たりの費用の割合は**0.950%**です。

項目	第19期 2018.7.18~2019.7.16		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	120円	0.926%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は12,938円です。
(投信会社)	(49)	(0.377)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(64)	(0.495)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(7)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	2	0.012	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(2)	(0.012)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	0	0.000	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.000)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	2	0.012	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(1)	(0.005)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(1)	(0.005)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.002)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	124	0.950	

注1. 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

● 最近5年間の基準価額等の推移

2014.7.15～2019.7.16



ハッピーエイジング20



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2014.7.15 決算日	2015.7.15 決算日	2016.7.15 決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日	2019.7.16 決算日
基準価額 (円)	10,930	13,543	11,099	14,045	15,015	14,179
期中分配金合計（税引前）(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資	—	23.9	△ 18.0	26.5	6.9	△ 5.6
基準価額騰落率 (%)	—	23.9	△ 17.0	21.0	7.6	△ 5.1
ベンチマーク騰落率 (%)	—	23.9	△ 17.0	21.0	7.6	△ 5.1
純資産総額 (百万円)	7,212	8,801	7,416	9,271	10,439	10,453

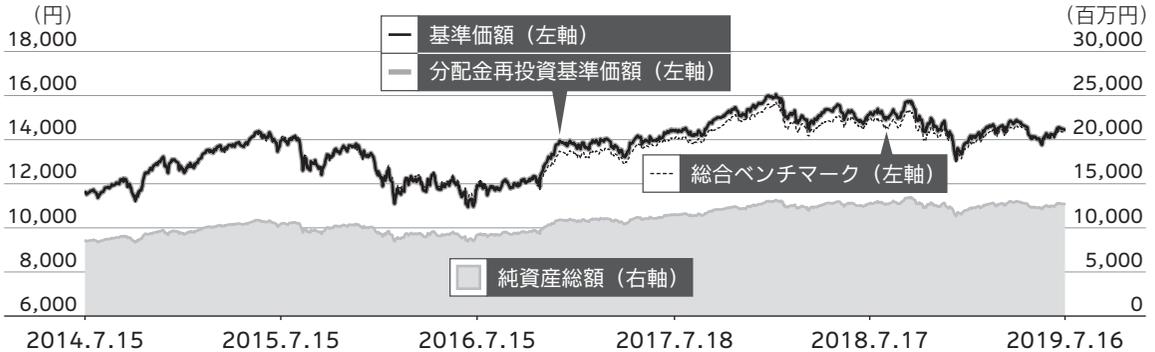
- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は64ページをご参照ください。▶

最近5年間の基準価額等の推移

2014.7.15~2019.7.16

ハッピーエイジング30



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2014.7.15 決算日	2015.7.15 決算日	2016.7.15 決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日	2019.7.16 決算日
基準価額 (円)	11,614	13,944	11,894	14,397	15,148	14,446
期中分配金合計（税引前）(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資	—	20.1	△ 14.7	21.0	5.2	△ 4.6
基準価額騰落率 (%)	—	20.6	△ 14.1	16.8	6.2	△ 4.1
純資産総額 (百万円)	8,543	10,450	9,226	11,485	12,738	12,699

- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

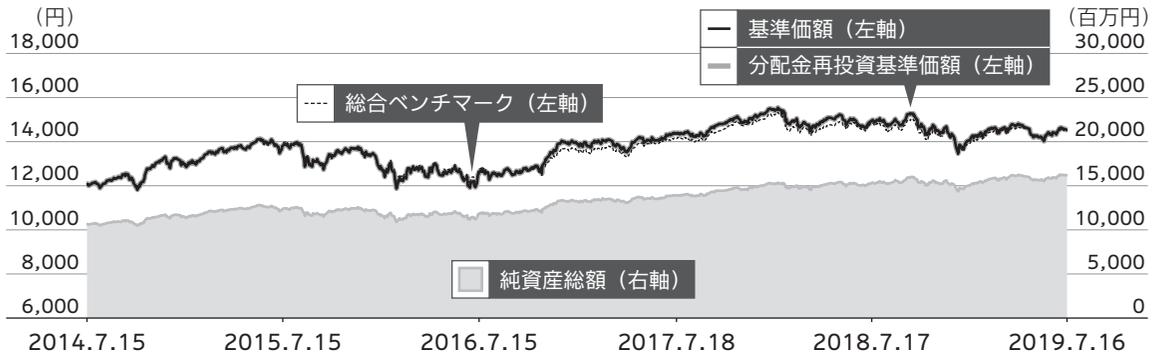
指数に関する詳細は64ページをご参照ください。

最近5年間の基準価額等の推移

2014.7.15~2019.7.16



ハッピーエイジング40



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2014.7.15 決算日	2015.7.15 決算日	2016.7.15 決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日	2019.7.16 決算日
基準価額 (円)	12,075	13,816	12,636	14,368	14,924	14,537
期中分配金合計（税引前）(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資	—	14.4	△ 8.5	13.7	3.9	△ 2.6
基準価額騰落率 (%)	—	14.9	△ 8.2	11.0	4.7	△ 2.3
純資産総額 (百万円)	10,651	12,378	11,857	13,906	15,282	16,189

- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は64ページをご参照ください。▶

最近5年間の基準価額等の推移

2014.7.15~2019.7.16



ハッピーエイジング50



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2014.7.15 決算日	2015.7.15 決算日	2016.7.15 決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日	2019.7.16 決算日
基準価額 (円)	12,215	13,347	13,007	13,890	14,262	14,137
期中分配金合計（税引前）(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資 基準価額騰落率 (%)	—	9.3	△ 2.5	6.8	2.7	△ 0.9
ベンチマーク騰落率 (%)	—	9.8	△ 2.2	5.4	3.3	△ 0.5
純資産総額 (百万円)	4,908	5,534	5,689	6,297	6,875	7,592

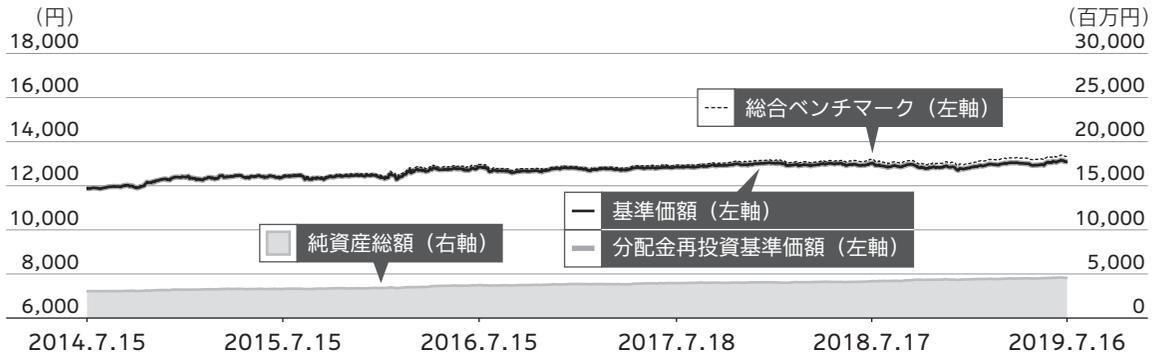
- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は64ページをご参照ください。▶

2014.7.15~2019.7.16



ハッピーエイジング60



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2014年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2014.7.15 決算日	2015.7.15 決算日	2016.7.15 決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日	2019.7.16 決算日
基準価額 (円)	11,883	12,399	12,843	12,846	13,015	13,089
期中分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資	—	4.3	3.6	0.0	1.3	0.6
基準価額騰落率 (%)	—	4.3	3.6	0.0	1.3	0.6
ベンチマーク騰落率 (%)	—	4.8	4.1	△0.2	2.0	1.0
純資産総額 (百万円)	3,031	3,292	3,737	3,967	4,186	4,551

- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は64ページをご参照ください。▶

最近5年間の基準価額等の推移

● 投資環境

1. 国内株式市況

TOPIXは10.1%の下落となりました。

期初は、米中の関税発動や新興国通貨の下落が相場の重しとなりましたが、力強い米国経済、安倍首相の三選などを好感して上昇しました。その後は、米国長期金利の上昇、2018年末にかけては、米国の追加利上げをきっかけに世界経済の先行き不安から急落しました。2019年の年明けにはFRB（米連邦準備理事会）の金融政策運営姿勢の柔軟化、中国による景気刺激策発表等から反騰局面となりましたが、米欧の中央銀行による市場予想を上回る緩和姿勢を受けて米国長期金利が急低下し、景気後退が連想されたために株価の上値は重くなりました。期末にかけては、一部企業の決算下振れや、米中貿易摩擦の再燃を受けて株価は下落しましたが、FRBへの利下げ期待が高まったことや、米中首脳が通商協議の再開で合意したことを受けて反発しました。

2. 国内債券市況

国内債券の利回りは低下（価格は上昇）しました。

期初から2018年10月までは利回りは上昇基調で推移しましたが、その後、世界的な景気悪化懸念の高まりや、欧米の中央銀行のハト派姿勢への転換を受けて、欧米金利と同様に国内債券利回りは低下基調となりました。特に利回り水準の高い超長期ゾーンの低下が顕著でした。

国債主導で利回りが低下するなか、事業債の対国債スプレッドは、小幅拡大しました。

3. 外国株式市況

○米国株式市場

米国株式市場は上昇しました。

堅調な経済指標や企業決算等を背景に株価は上昇基調で推移していましたが、2018年10月に米中貿易摩擦激化等を背景に下落しました。

グローバル景気の減速懸念が高まる中、予算案をめぐる議会对立を背景に米国政府機関が一部閉鎖したこと等が嫌気され、株価は年末にかけてさらに急落しました。

株式市場の急落を受け、2019年の年明けにFRB（米連邦準備理事会）が利上げの一時停止を表明すると株価は上昇基調に転じました。

5月には中国やイランとの地政学リスクが嫌気され下落する場面もありましたが、FRBが利下げ姿勢に転じたこと等を背景に株式市場は市場最高値を更新しました。

○欧州株式市場

欧州株式市場は小幅に上昇しました。

期初から米国との貿易対立激化等を背景に下落基調で推移し、巨額の政府債務残高を抱えるイタリア政府とECB（欧州中央銀行）との予算案をめぐる対立の深まりや、フランスで経済改革に対する大規模抗議活動が発生したこと等が嫌気され、2018年末にかけてさらに下落しました。

2019年の年明けには米国で利上げ観測が後退したこと等を背景に反転し、3月にECBが緩和的な金融政策の継続を発表したことや、4月に英国のEU（欧州連合）離脱延期が決定されたこと等が好感され、株価は上昇しました。

5月には米中貿易摩擦激化を背景に下落しましたが、世界的な金融緩和姿勢を受け上昇して期末を迎えました。

○アジア株式市場

アジア株式市場はほぼ横ばいでした。

トルコリラの急落をきっかけに新興国からの資金流出懸念が高まったこと等を受け、期初から下落基調で推移していましたが、2018年10月に中国の景気減速懸念が広がったこと等を背景に株価は大きく下落しました。

11月以降は横ばいで推移していましたが、2019年の年明けに米国や中国で緩和的な金融政策が発表されると、株価は反転しました。

米中貿易摩擦懸念の高まりを受け株価が急落する場面もありましたが、各国で景気浮揚策が発表されたことや、世界的な金融緩和姿勢を背景に資金流入期待が高まったこと等を受け株価は上昇し、下落分を取り戻しました。

4. 外国債券市況

○米国債券市場

当期の米国10年債利回りは、低下（価格は上昇）しました。

米国10年債利回りは、2018年11月上旬までは、FRB（米連邦準備理事会）による利上げ観測が継続する中、トランプ政権の減税策による景気堅調期待や財政規律の緩みを背景に上昇傾向となりました。しかし、その後は、米中貿易摩擦による世界的な景気減速や米国景気のピークアウトへの懸念が高まる中、利下げ観測が強まったことを受けて、大幅に低下しました。

○欧州債券市場

当期のドイツ10年債利回りは、低下（価格は上昇）しました。

ドイツ10年債利回りは、2018年11月までは、米国金利の上昇を受けて上昇する局面もありましたが、欧州の景気減速や政治不安などが利回りの低下圧力となり、方向感に欠ける動きとなりました。その後は、世界的な景気減速懸念の高まりなどを背景にECB（欧州中央銀行）やFRBが金融緩和に前向きな姿勢を示したことから、利回りは低下傾向となりました。

○為替相場

当期の米ドル円相場は、円高ドル安となりました。

ドル円相場は、米中貿易摩擦の激化懸念によりリスク回避姿勢が高まったことや、米国の利下げ観測の高まりにより日米金利差の縮小が意識されたことを受けて、円高ドル安が進みました。

5. エマージング株式市況

エマージング株式市場は下落しました。

期初はトルコリラの急落から、南米や南アフリカなど幅広い地域で通貨安が進み、リスク回避の姿勢が強まったことで、株価は下落しました。また2018年末には中国通信機器大手華為技術（ファーウェイ）のCFO（最高財務責任者）が拘束されたことで米中対立の激化への警戒感が高まったことや、米国の政策金利上げペースの加速観測によって新興国からの資金流出懸念が広がったことも悪材料となりました。

その後は米国の利上げ姿勢が後退したことや、中国の景気刺激策に対する期待感の高まりから株価は反発したものの、世界的な景気減速懸念や米中貿易交渉の先行きに対する不透明感が株価の上値を抑え、期を通じては、エマージング株式市場は小幅下落となりました。

● 当該投資信託のポートフォリオ

ハッピーエイジング・ファンド

各ファンドの資産アロケーションについては、当社が決定した基準資産配分比率を、各々ほぼ維持する戦略を採りました。

ハッピーエイジング20実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	1.9%	2.0%	△0.1%
外国債券	5.8%	6.0%	△0.2%
国内株式	51.9%	52.0%	△0.1%
外国株式	33.6%	33.0%	0.6%
エマージング株式	4.6%	5.0%	△0.4%
短期資産	2.1%	2.0%	0.1%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング30実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	7.9%	8.0%	△0.1%
外国債券	19.5%	20.0%	△0.5%
国内株式	44.2%	44.0%	0.2%
外国株式	21.5%	21.0%	0.5%
エマージング株式	4.7%	5.0%	△0.3%
短期資産	2.1%	2.0%	0.1%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング40実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	32.6%	33.0%	△0.4%
外国債券	14.7%	15.0%	△0.3%
国内株式	31.2%	31.0%	0.2%
外国株式	14.2%	14.0%	0.2%
エマージング株式	4.8%	5.0%	△0.2%
短期資産	2.4%	2.0%	0.4%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング50実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	56.7%	57.0%	△0.3%
外国債券	10.9%	11.0%	△0.1%
国内株式	19.3%	19.0%	0.3%
外国株式	8.2%	8.0%	0.2%
エマージング株式	2.7%	3.0%	△0.3%
短期資産	2.3%	2.0%	0.3%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング60実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	72.2%	72.0%	0.2%
外国債券	15.9%	16.0%	△0.1%
国内株式	8.0%	8.0%	0.0%
外国株式	2.0%	2.0%	0.0%
エマージング株式	0.0%	0.0%	0.0%
短期資産	1.8%	2.0%	△0.2%
合計	100.0%	100.0%	—

S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、99.3%です。
当期も、当社独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき、銘柄入替を行いました。
主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、日本碍子、セイコーエプソン、日揮などでした。
主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、三菱重工業、ジェイ エフ イー ホールディングス、みずほフィナンシャルグループなどでした。

S J AMスモールキャップ・マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、99.5%です。
主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、みらかホールディングス、八十二銀行、日本ライフラインなどでした。
主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、沢井製薬、ケーズホールディングス、東和薬品などでした。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

金利戦略は、主に長期、超長期ゾーンをオーバーウェイトし、短中期ゾーンをアンダーウェイトするロングデュレーション戦略を基本としました。
また、イールドカーブ上の相対的に割安な年限をオーバーウェイトするレラティブ・バリュー戦略もとどり、戦略の分散化を狙いました。
債券種別戦略は、非国債をオーバーウェイトする戦略を継続しましたが、オーバーウェイト幅は縮小しました。
個別銘柄選択は、銀行劣後債を売却し、国債への入れ替えを行いました。

損保ジャパン-T C W外国株式マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率（対純資産総額比）は、96.7%です。



損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

期を通して債券の組入比率は概ね高位に維持しました。

・国別配分

ドルやユーロの通貨戦略とユーロ圏の国別配分戦略を中心に、相場動向に合わせて、ポジションを機動的に変更しました。

・デュレーション・残存期間構成戦略

デュレーション戦略は、米国と欧州を中心に相場動向に合わせて、機動的にポジションを変更しました。

なお、為替ヘッジは行っておりません。

● 当該投資信託のベンチマークとの差異

当期間、「S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド」、「損保ジャパン日本債券マザーファンド」、「損保ジャパン-T C W外国株式マザーファンド」、「損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド」、「エマージング株式」の騰落率はベンチマーク（日本株式は対TOPIX）を上回り、「S J AMスモールキャップ・マザーファンド」の騰落率はTOPIXを下回りました。

その結果、各ファンドにおける総合ベンチマークとの差異及び差異要因は以下の通りとなりました。

☉ ハッピーエイジング20

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（-5.1%）を0.4%下回りました。

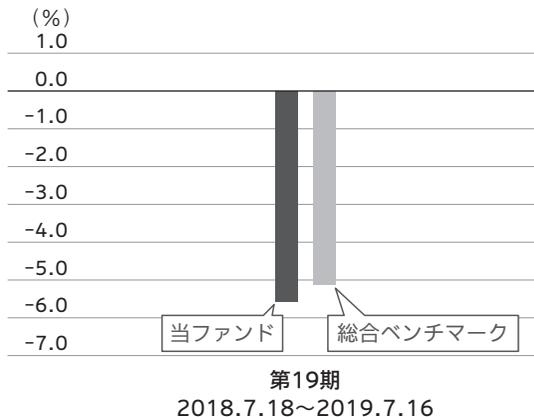
【プラス要因】

マザーファンド全体の対ベンチマーク収益率

【マイナス要因】

信託報酬等

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



ハッピーエイジング30

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（-4.1%）を0.5%下回りました。

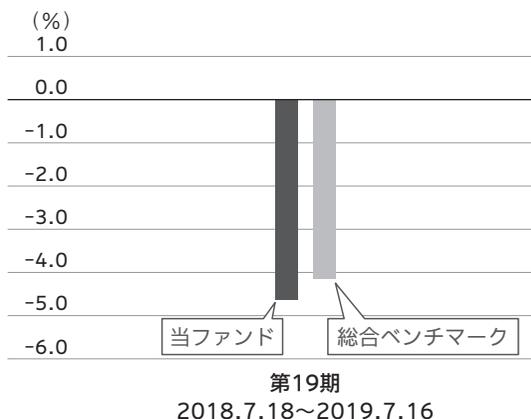
【プラス要因】

マザーファンド全体の対ベンチマーク収益率

【マイナス要因】

信託報酬等

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



ハッピーエイジング40

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（-2.3%）を0.3%下回りました。

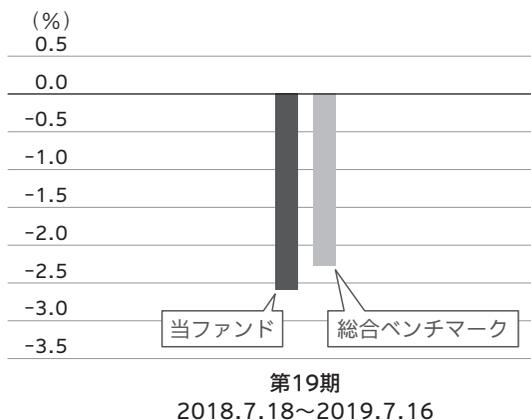
【プラス要因】

マザーファンド全体の対ベンチマーク収益率

【マイナス要因】

信託報酬等

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



📊 ハッピーエイジング50

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（-0.5%）を0.4%下回りました。

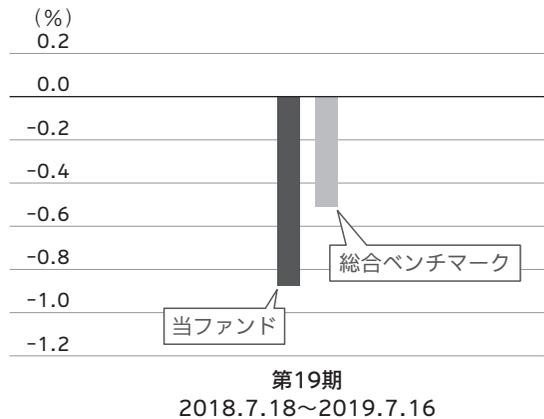
【プラス要因】

マザーファンド全体の対ベンチマーク収益率

【マイナス要因】

信託報酬等

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



📊 ハッピーエイジング60

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（+1.0%）を0.4%下回りました。

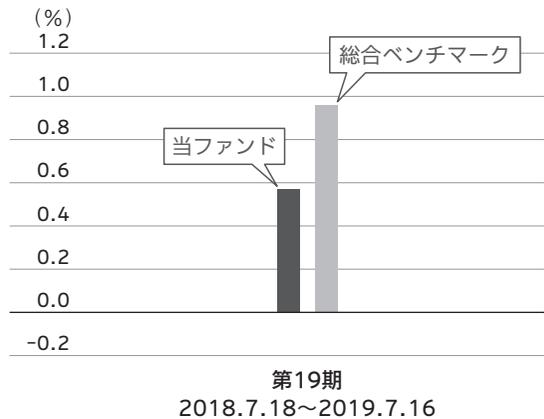
【プラス要因】

マザーファンド全体の対ベンチマーク収益率

【マイナス要因】

信託報酬等

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



期を通じて各マザーファンドを組入れておりましたので、以下ではマザーファンドとベンチマークとの差異の要因分析等についてご説明致します。

SJAMラージキャップ・バリュー・マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、Russell/Nomura Large Cap Value インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス）の騰落率（-7.0%）を2.2%下回りました。

業種構成では、石油・石炭製品のアンダーウェイト、情報・通信業、機械のオーバーウェイトなどがプラス要因に、証券、商品先物取引業、鉄鋼のオーバーウェイト、卸売業のアンダーウェイトなどがマイナス要因になりました。

個別銘柄では、三菱重工業、日本電気硝子、ケースホールディングスのオーバーウェイトなどがプラス要因に、日産自動車、クレディセゾンのオーバーウェイト、トヨタ自動車のアンダーウェイトなどがマイナス要因になりました。

SJAMスモールキャップ・マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、Russell/Nomura Small Cap（配当を含むトータルリターンインデックス）の騰落率（-12.3%）とほぼ同水準でした。

業種構成では、医薬品のオーバーウェイト、建設業、ガラス・土石製品のアンダーウェイトなどがプラス要因に、銀行業、輸送用機器のオーバーウェイト、情報・通信業のアンダーウェイトなどがマイナス要因になりました。

個別銘柄では、東和薬品、ケースホールディングスのオーバーウェイト、東京精密のアンダーウェイトなどがプラス要因に、青山商事、東海東京フィナンシャル・ホールディングス、日立造船のオーバーウェイトなどがマイナス要因になりました。

損保ジャパン日本債券マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、ベンチマーク（NOMURA-BPI総合指数）の騰落率（+2.2%）を0.5%上回りました。

金利戦略は主に、2018年11月から期末までの超長期ゾーンをオーバーウェイトするロングデュレーション戦略を中心にプラスとなりました。

債券種別戦略は、主にRMBSのオーバーウェイトがプラスとなりました。

個別銘柄戦略は、武田薬品工業の劣後債や、生保の劣後債などの保有がプラスとなりました。

損保ジャパンTCW外国株式マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、ベンチマーク（MSCIコクサイ インデックス（円換算ベース））の騰落率（+0.4%）を4.4%上回りました。

米国のオーバーウェイト等の地域配分や、米国株式の銘柄選択要因がプラスに寄与しました。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、ベンチマーク（FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース））の騰落率（+0.3%）を0.9%上回りました。

主に米欧のデュレーション戦略がプラス要因となりました。

エマージング株式

ベンチマーク（MSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース））の騰落率（-5.1%）を1.9%上回りました。

● 分配金

中長期的な観点から、複利効果による資産の成長を目指すために分配を抑えるファンドです。

ハッピーエイジング・ファンド

収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、各ファンドで当期は分配を行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第19期 2018.7.18~2019.7.16				
	ハッピーエイジング20	ハッピーエイジング30	ハッピーエイジング40	ハッピーエイジング50	ハッピーエイジング60
当期分配金	—	—	—	—	—
(対基準価額比率)	—%	—%	—%	—%	—%
当期の収益	—	—	—	—	—
当期の収益以外	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	9,648	8,050	6,655	4,756	3,088

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

● 今後の運用方針

ハッピーエイジング・ファンド

マザーファンドの受益証券等への投資を通して、国内株式・国内債券にとどまらず世界各国の株式および債券に積極的に分散投資を行うことによって、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド

当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき銘柄を選択していくことを基本方針とします。今後も、固有の割安要因に着目した個別銘柄選択を中心とするポートフォリオ構築によって、中長期的に着実な信託財産の成長を目指します。

S J AMスモールキャップ・マザーファンド

当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき銘柄を選択していくことを基本方針とします。今後も、固有の割安要因に着目した個別銘柄選択を中心とするポートフォリオ構築によって、中長期的に着実な信託財産の成長を目指します。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

金利戦略については、相場環境に応じてカーブ戦略を中心に機動的に変更する方針です。

債券種別戦略については、事業債を中心とした非国債のオーバーウェイト戦略を継続しますが、市場動向を見ながら、オーバーウェイト幅削減の検討を行います。

個別銘柄選択については、信用力対比で投資妙味のある銘柄の組み入れを行う方針です。

損保ジャパン－TCW外国株式マザーファンド

外国株式については、米国を中心に企業業績は堅調であり、今後もその傾向は継続するものと見えています。その一方で、米中の貿易戦争が懸念材料であり注視していく必要があります。引き続き高い成長と安定したキャッシュフローが見込める企業に注目しています。

当ファンドは各ストラテジーの投資比率を適宜調整し、個別企業のファンダメンタルズ分析に注力し、いずれの景気局面においても恩恵を十分に受けられるポートフォリオを構築してまいります。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

国別配分戦略は、ドルやユーロの通貨戦略とユーロ圏の国別配分戦略を中心に、相場動向に合わせて、ポジションを機動的に変更し、収益機会を増やす方針とします。

デュレーション戦略は、米国と欧州を中心に相場動向に合わせて、機動的にポジションを変更し、収益機会を増やす方針とします。

● お知らせ

ハッピーエイジング20

ハッピーエイジング30

ハッピーエイジング40

ハッピーエイジング50

ハッピーエイジング60

受益者の利益に資すると考え、投資信託約款の「受託者の自己または利害関係人等との取引」の追加等の変更を行いました（2019年7月1日）。

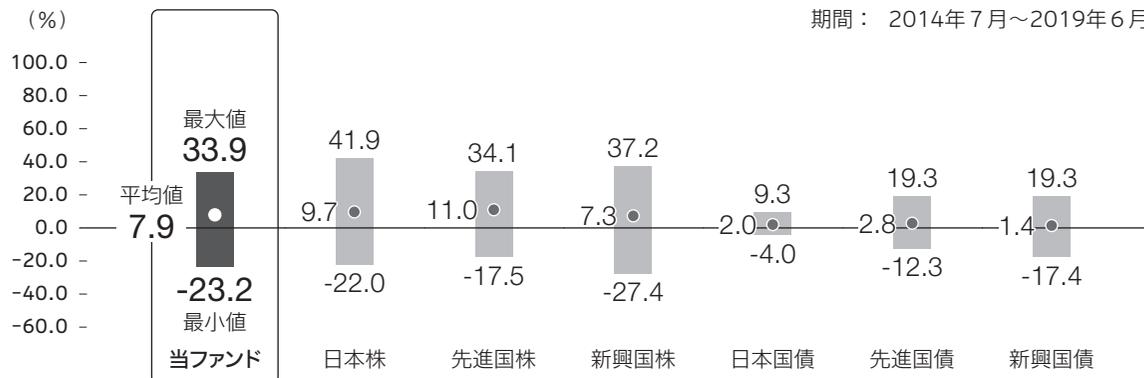
● 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	無期限	
運用方針	中長期的に信託財産の着実な成長を目標として運用を行います。	
主要投資対象	 ハッピーエイジング20/30/40/50/60 「S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド」、 「S J AMスモールキャップ・マザーファンド」、 「損保ジャパン日本債券マザーファンド」、 「損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド」、 「損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド ^{※1} 」の受益証券およびエマージング株式又はエマージング株式を主要投資対象とする証券投資信託 ^{※2} ※1 運用スタイル毎のアロケーションと北米株式の運用指図に関する権限を、TCW INVESTMENT MANAGEMENT COMPANYに委託します。 ※2 パッシブ運用を行う証券投資信託受益証券を組入れる可能性があります。	
	 S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド わが国の株式	 損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド 日本を除く世界各国の公社債
	 S J AMスモールキャップ・マザーファンド わが国の株式	 損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド 日本を除く世界各国の株式
	 損保ジャパン日本債券マザーファンド 日本の公社債	
運用方法	① 国内株式・国内債券にとどまらず世界各国の株式及び債券に積極的に分散投資を行うことによって、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。 ② 長期的な視点から基準資産配分比率を決定し、当該比率をめどに投資を行います。 ③ 各ファンドの運用は、以下の個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均したものを総合ベンチマークとし、これを上回る運用成果を目指します。 国内株式：東証株価指数（TOPIX） 国内債券：NOMURA-BPI総合指数 外国債券：FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース） 外国株式：MSCIコクサイ インデックス（円換算ベース） エマージング株式：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース） 短期資産：有担コール翌日物	
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ① 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。 ② 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

● 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

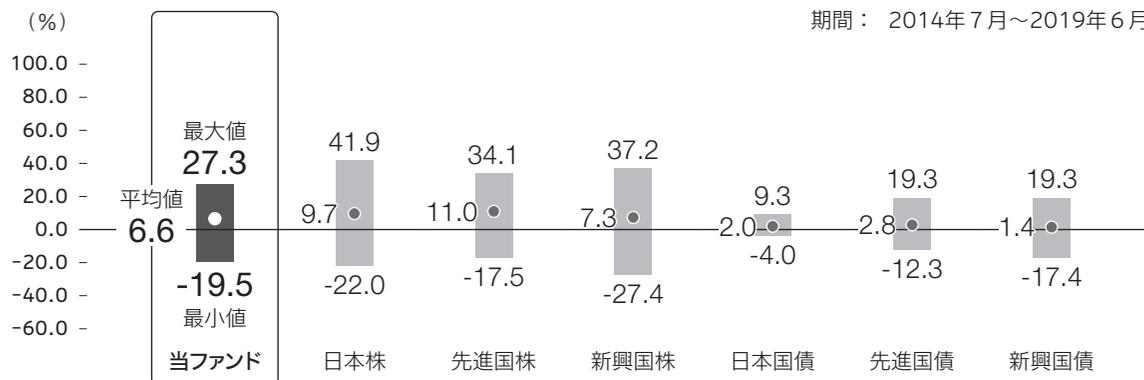
📊 ハッピーエイジング20

期間： 2014年7月～2019年6月



📊 ハッピーエイジング30

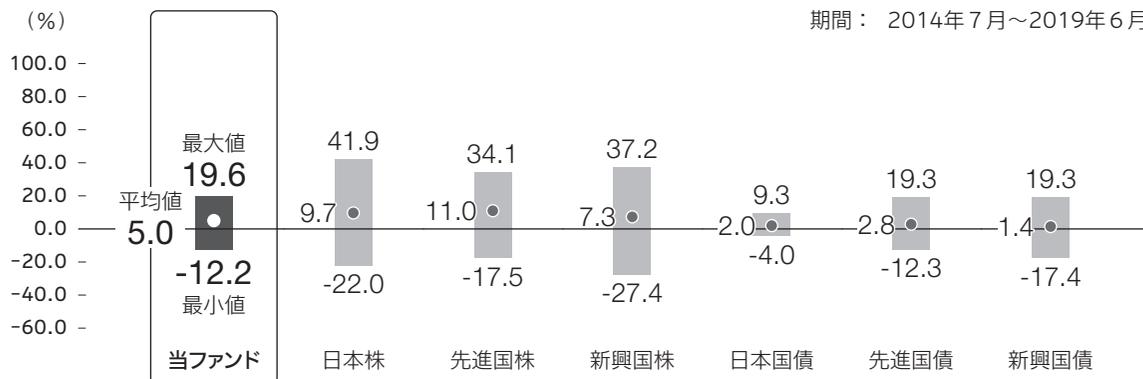
期間： 2014年7月～2019年6月



代表的な資産クラスとの騰落率の比較

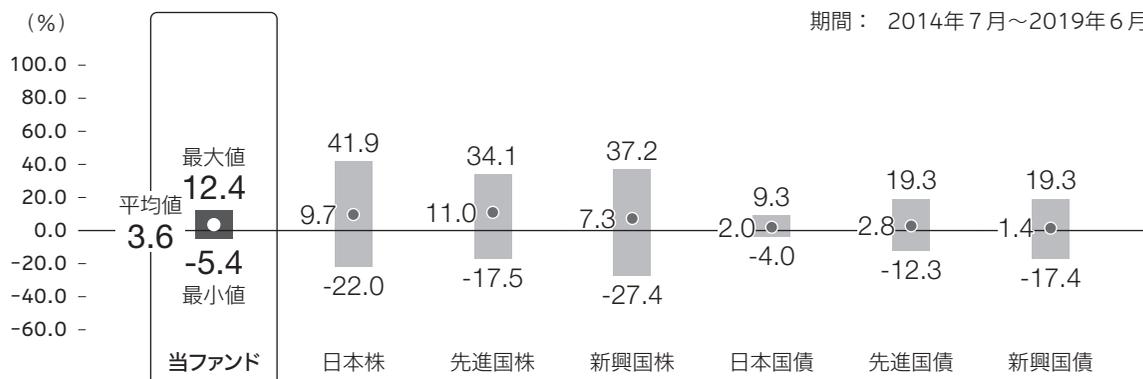
ハッピーエイジング40

期間：2014年7月～2019年6月



ハッピーエイジング50

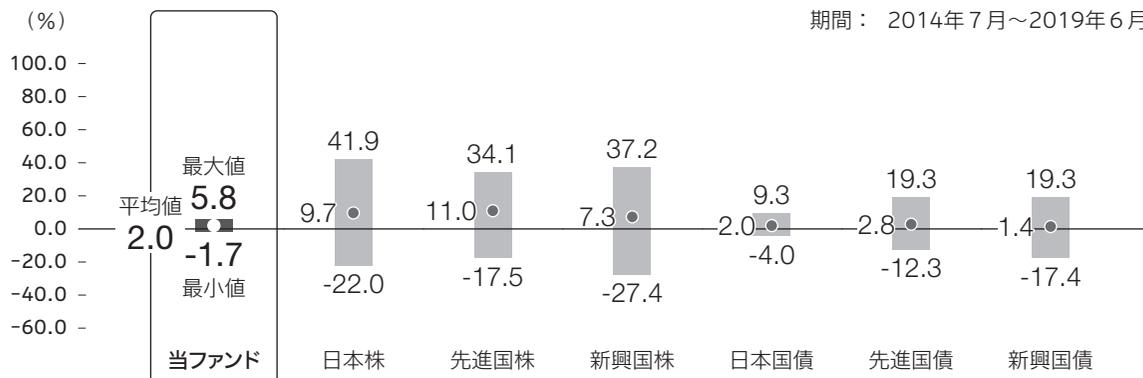
期間：2014年7月～2019年6月



代表的な資産クラスとの騰落率の比較

📊 ハッピーエイジング60

期間：2014年7月～2019年6月



* 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

* 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)
日本国債	NOMURA-BPI国債
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

※ 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- 当ファンドについては、分配金 (税引前) 再投資基準価額の騰落率です。
- 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- 上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

指数に関する詳細は64～65ページをご参照ください。

当該投資信託のデータ

📊 ハッピーエイジング20

● 当該投資信託の組入資産の内容

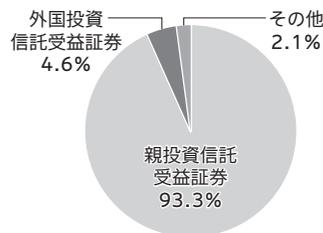
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

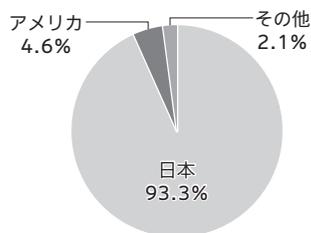
	第19期末 2019.7.16
損保ジャパン T C W外国株式マザーファンド	33.6%
S J A Mスモールキャップ・マザーファンド	26.1%
S J A Mラージキャップ・パリュウ・マザーファンド	25.8%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	5.8%
ISHARES MSCI EMERGING MKT ETF	4.6%
損保ジャパン日本債券マザーファンド	1.9%

注．比率は第19期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

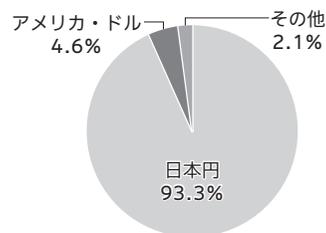
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注．比率は第19期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第19期末 2019.7.16
純資産総額	10,453,350,603円
受益権総口数	7,372,660,976口
1万口当たり基準価額	14,179円

※ 当期中における追加設定元本額は1,441,075,609円、同解約元本額は1,021,272,801円です。

● 当該投資信託の組入資産の内容

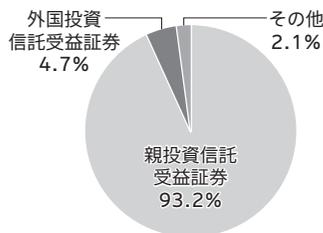
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

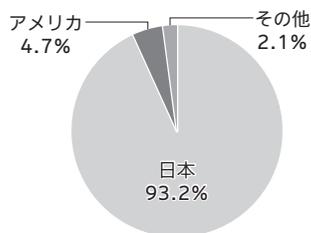
	第19期末 2019.7.16
S J AMスモールキャップ・マザーファンド	22.2%
S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド	22.0%
損保ジャパンTCW外国株式マザーファンド	21.5%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	19.5%
損保ジャパン日本債券マザーファンド	7.9%
ISHARES MSCI EMERGING MKT ETF	4.7%

注．比率は第19期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

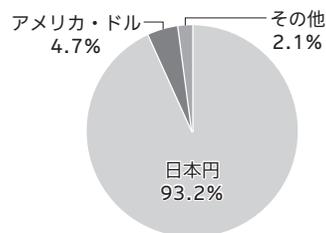
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注．比率は第19期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第19期末 2019.7.16
純資産総額	12,699,403,491円
受益権総口数	8,790,841,480口
1万口当たり基準価額	14,446円

※ 当期中における追加設定元本額は1,151,257,690円、同解約元本額は770,237,275円です。

● 当該投資信託の組入資産の内容

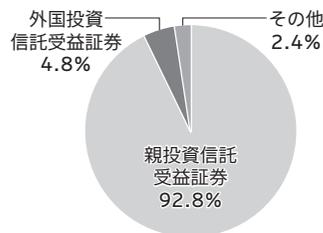
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

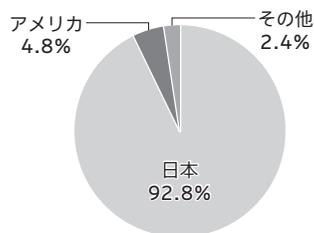
	第19期末 2019.7.16
損保ジャパン日本債券マザーファンド	32.6%
S J AMスモールキャップ・マザーファンド	15.7%
S J AMラージキャップ・パリュウ・マザーファンド	15.5%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	14.7%
損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド	14.2%
ISHARES MSCI EMERGING MKT ETF	4.8%

注．比率は第19期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

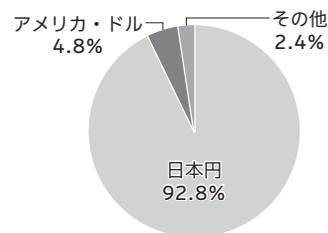
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注．比率は第19期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第19期末 2019.7.16
純資産総額	16,189,690,869円
受益権総口数	11,136,652,437口
1万口当たり基準価額	14,537円

※ 当期中における追加設定元本額は1,884,821,803円、同解約元本額は988,431,478円です。

● 当該投資信託の組入資産の内容

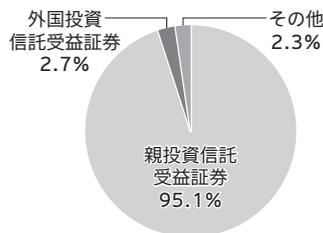
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

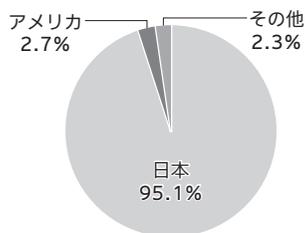
	第19期末 2019.7.16
損保ジャパン日本債券マザーファンド	56.7%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	10.9%
S J AMスモールキャップ・マザーファンド	9.7%
S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド	9.6%
損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド	8.2%
ISHARES MSCI EMERGING MKT ETF	2.7%

注．比率は第19期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

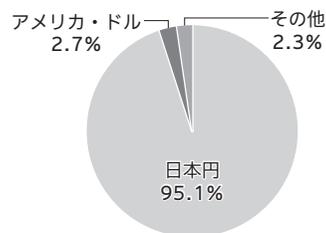
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注．比率は第19期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第19期末 2019.7.16
純資産総額	7,592,282,029円
受益権総口数	5,370,507,370口
1万口当たり基準価額	14,137円

※ 当期中における追加設定元本額は1,121,171,260円、同解約元本額は571,339,838円です。

● 当該投資信託の組入資産の内容

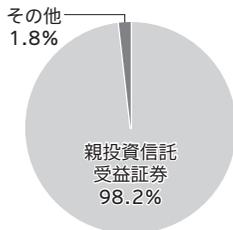
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

	第19期末 2019.7.16
損保ジャパン日本債券マザーファンド	72.2%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	15.9%
S J A M スモールキャップ・マザーファンド	4.0%
S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド	4.0%
損保ジャパン-T C W 外国株式マザーファンド	2.0%

注. 比率は第19期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注. 比率は第19期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第19期末 2019.7.16
純資産総額	4,551,251,809円
受益権総口数	3,477,272,681口
1万口当たり基準価額	13,089円

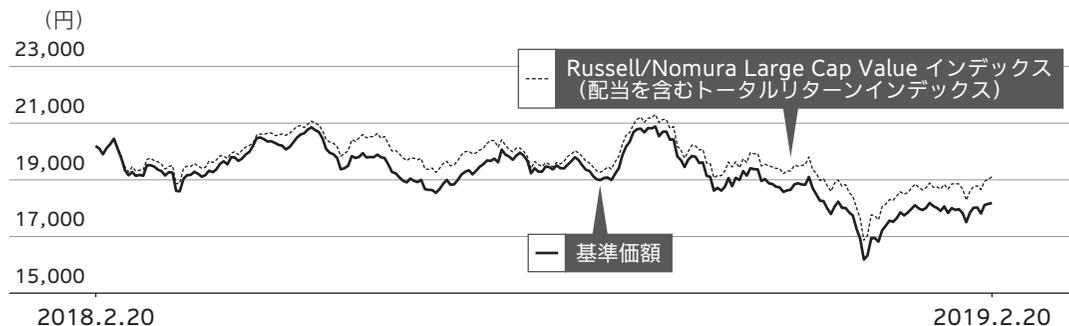
※ 当期中における追加設定元本額は829,372,301円、同解約元本額は568,524,688円です。

● 組入上位ファンドの概要

※ 組入ファンドの計算期間の詳細な運用経過等に関する詳細な情報については、運用報告書（全体版）に記載されています。

● S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（Russell/Nomura Large Cap Value インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス））の推移は、2018年2月20日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

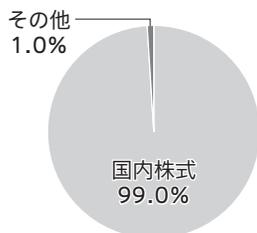
項目	2018.2.21～2019.2.20	
	金額	比率
売買委託手数料	23円	0.120%
(株式)	(23)	(0.120)
その他費用	0	0.000
(その他)	(0)	(0.000)
合計	23	0.120

期中の平均基準価額は19,250円です。

組入上位10銘柄

銘柄名	業種	通貨	国(地域)	比率
1 本田技研工業	輸送用機器	日本円	日本	6.9%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	日本円	日本	6.7%
3 新日鐵住金	鉄鋼	日本円	日本	6.6%
4 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	日本円	日本	6.4%
5 野村ホールディングス	証券、商品先物取引業	日本円	日本	6.3%
6 住友電気工業	非鉄金属	日本円	日本	5.9%
7 三菱重工業	機械	日本円	日本	5.0%
8 デンソー	輸送用機器	日本円	日本	4.3%
9 日産自動車	輸送用機器	日本円	日本	4.1%
10 日本電信電話	情報・通信業	日本円	日本	3.8%
組入銘柄数		33銘柄		

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については13ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

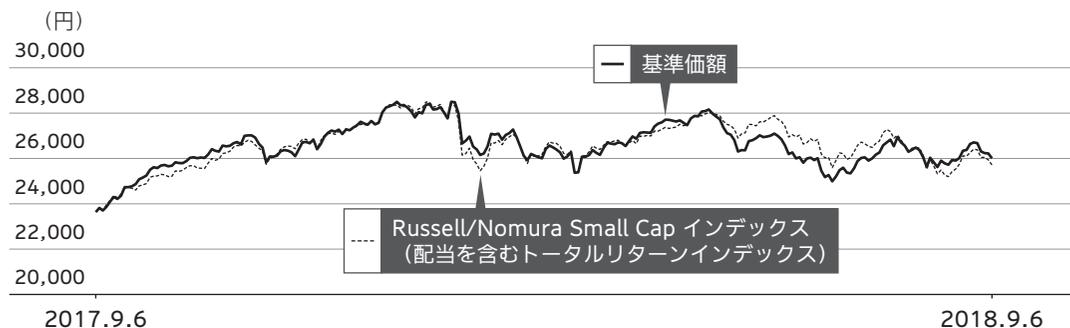
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2019年2月20日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



S J AMスモールキャップ・マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（Russell/Nomura Small Cap インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス））の推移は、2017年9月6日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

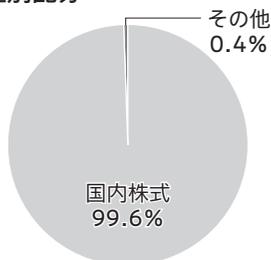
1万口当たりの費用明細

項目	2017.9.7～2018.9.6
売買委託手数料	25円
(株式)	(25)
その他費用	0
(その他)	(0)
合計	26

組入上位10銘柄

銘柄名	業種	比率
1 沢井製薬	医薬品	3.6%
2 東邦ホールディングス	卸売業	3.6%
3 ケーズホールディングス	小売業	3.1%
4 ジーエス・ユアサ コーポレーション	電気機器	3.0%
5 シチズン時計	精密機器	3.0%
6 東和薬品	医薬品	2.7%
7 青山商事	小売業	2.6%
8 伊予銀行	銀行業	2.5%
9 ノーリツ鋼機	精密機器	2.5%
10 シップヘルスケアホールディングス	卸売業	2.4%
組入銘柄数		70銘柄

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については13ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

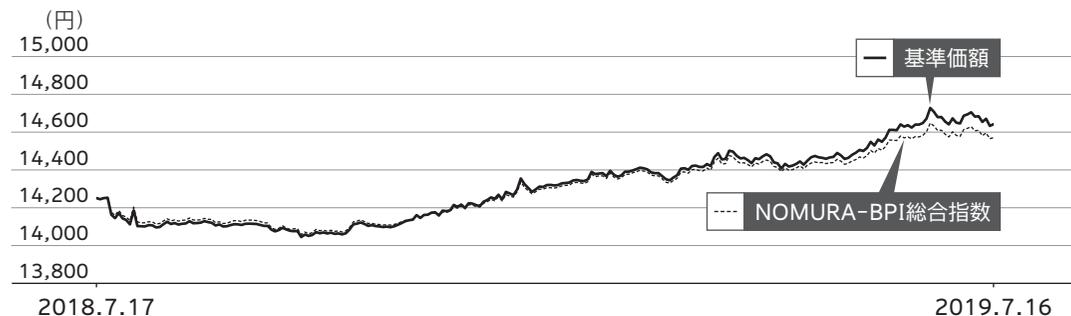
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2018年9月6日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



損保ジャパン日本債券マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（NOMURA-BPI総合指数）の推移は、2018年7月17日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

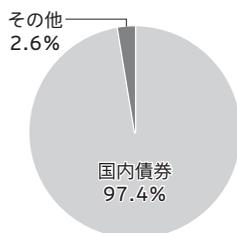
項目	2018.7.18~2019.7.16	
	金額	比率
その他費用	0円	0.001%
(その他)	(0)	(0.001)
合計	0	0.001

期中の平均基準価額は14,323円です。

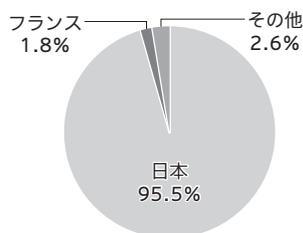
組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 第347回利付国債(10年)	国債証券	日本円	日本	5.6%
2 第38回利付国債(30年)	国債証券	日本円	日本	4.6%
3 第150回利付国債(20年)	国債証券	日本円	日本	4.0%
4 第139回利付国債(5年)	国債証券	日本円	日本	3.7%
5 第350回利付国債(10年)	国債証券	日本円	日本	3.6%
6 第154回利付国債(20年)	国債証券	日本円	日本	3.6%
7 第353回利付国債(10年)	国債証券	日本円	日本	3.1%
8 第158回利付国債(20年)	国債証券	日本円	日本	2.9%
9 第345回利付国債(10年)	国債証券	日本円	日本	2.7%
10 第401回利付国債(2年)	国債証券	日本円	日本	2.4%
組入銘柄数		83銘柄		

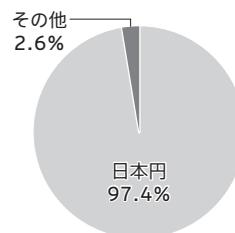
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については13ページ(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

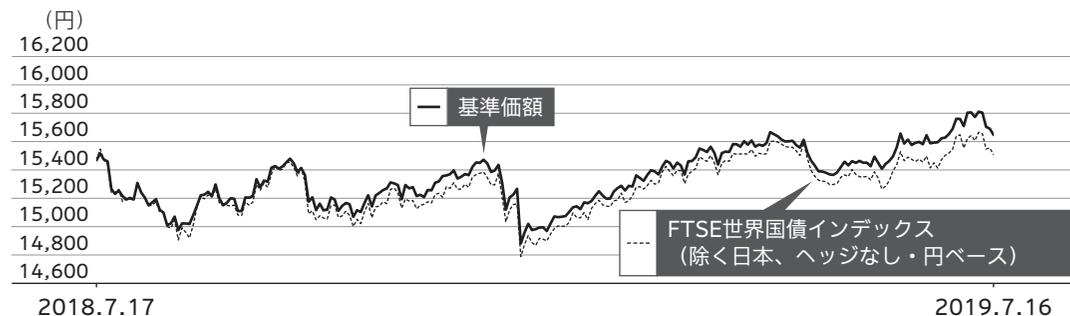
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日(2019年7月16日)現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース））の推移は、2018年7月17日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

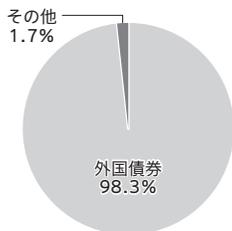
項目	2018.7.18~2019.7.16	
	金額	比率
その他費用	5円	0.031%
(保管費用)	(4)	(0.029)
(その他)	(0)	(0.002)
合計	5	0.031

期中の平均基準価額は15,372円です。

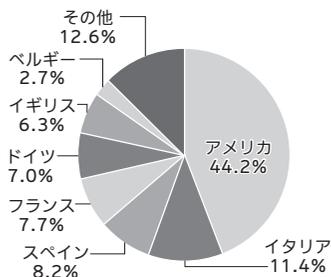
組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 Treasury 2.125 240229	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	5.9%
2 Treasury 2.125 250515	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	5.2%
3 Treasury 1.625 230531	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	5.0%
4 Treasury 2.75 280215	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	4.9%
5 Treasury 1.875 220228	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	4.3%
6 ITALY 2.8 281201	国債証券	ユーロ	イタリア	3.3%
7 GERMANY 4.0 370104	国債証券	ユーロ	ドイツ	3.2%
8 SPAIN 1.5 270430	国債証券	ユーロ	スペイン	3.1%
9 Treasury 3.0 480215	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	3.1%
10 Treasury 1.875 260630	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	3.0%
組入銘柄数		117銘柄		

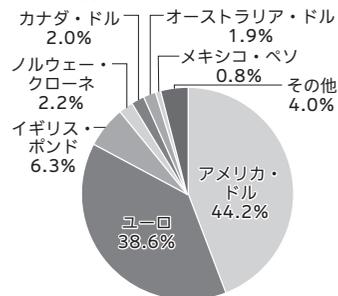
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については13ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

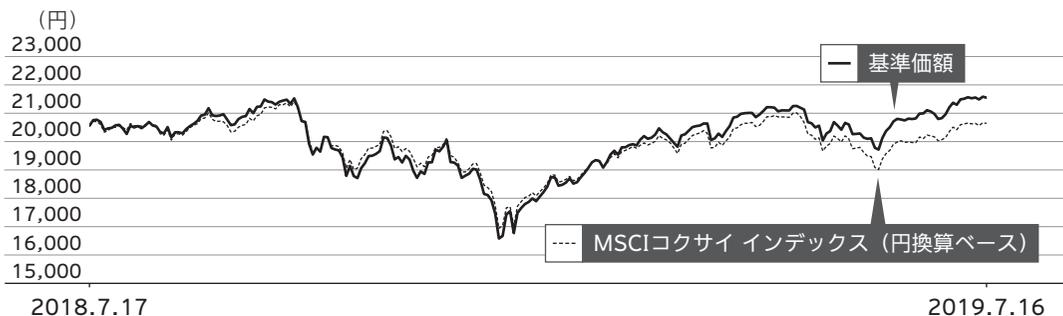
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2019年7月16日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



損保ジャパン－TCW外国株式マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（MSCIコクサイ インデックス（円換算ベース））の推移は、2018年7月17日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

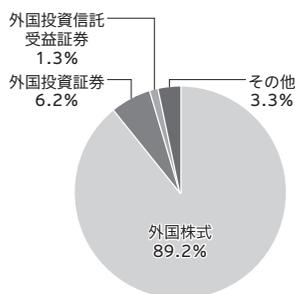
項目	2018.7.18～2019.7.16	
	金額	比率
売買委託手数料	14円	0.070%
(株式)	(12)	(0.059)
(投資信託証券)	(2)	(0.011)
有価証券取引税	2	0.008
(株式)	(2)	(0.008)
(投資信託証券)	(0)	(0.000)
その他費用	9	0.047
(保管費用)	(9)	(0.044)
(その他)	(1)	(0.003)
合計	25	0.125

期中の平均基準価額は20,032円です。

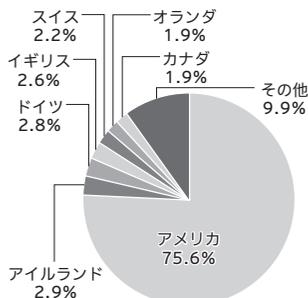
組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 VISA INC-CLASS A SHARES	ソフトウェア・サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	2.6%
2 MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	2.5%
3 TRANSUNION	商業・専門サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	2.4%
4 ROPER TECHNOLOGIES INC	資本財	アメリカ・ドル	アメリカ	2.0%
5 WASTE CONNECTIONS INC	商業・専門サービス	アメリカ・ドル	カナダ	1.9%
6 BAXTER INTERNATIONAL INC	ヘルスケア機器・サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	1.9%
7 TRADE DESK INC/THE -CLASS A	ソフトウェア・サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	1.7%
8 MASTERCARD INC-CLASS A	ソフトウェア・サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	1.7%
9 HEICO CORP	資本財	アメリカ・ドル	アメリカ	1.6%
10 AMAZON.COM INC	小売	アメリカ・ドル	アメリカ	1.6%
組入銘柄数		218銘柄		

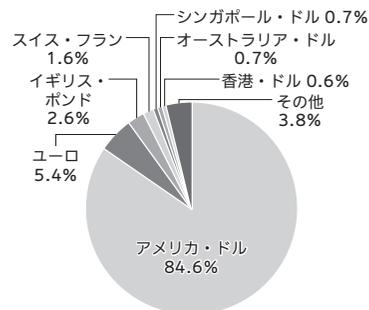
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については13ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2019年7月16日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

● 指数に関して

当ファンドのベンチマークについて

個別資産毎のベンチマークを基準資産配分比率で加重平均したもので個別資産毎のベンチマークは次の通りです。国内株式：東証株価指数（TOPIX）、国内債券：NOMURA-BPI総合指数、外国債券：FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）、外国株式：MSCIコクサイ インデックス、（円換算ベース）、エマージング株式：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース）、短期資産：有担コール翌日物

「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

■ 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時（1968年1月4日終値）の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。東証株価指数（TOPIX）は、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

■ MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界主要国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成した株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

■ MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）は、MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）をもとに委託会社が独自に計算したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

■ NOMURA-BPI国債

野村証券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。NOMURA-BPIに関する一切の知的財産権その他一切の権利は、すべて野村証券株式会社に帰属します。野村証券株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

■ FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

■ JPMorgan GBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ベース）

J.P. Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。同指数の著作権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

ホームページにて各ファンドの詳細をご案内しております。

検索

それぞれのファンド名をご入力下さい。

ハッピーエイジング20

<https://www.sjnk-am.co.jp/fund/0883/price.html>



ハッピーエイジング30

<https://www.sjnk-am.co.jp/fund/0884/price.html>

ハッピーエイジング40

<https://www.sjnk-am.co.jp/fund/0885/price.html>

ハッピーエイジング50

<https://www.sjnk-am.co.jp/fund/0886/price.html>

ハッピーエイジング60

<https://www.sjnk-am.co.jp/fund/0887/price.html>

各書類の最新版をご確認いただけます。

交

交付目論見書

当ファンド購入に際して投資判断に必要な重要事項をご説明しております。

運交

交付運用報告書

当ファンドの運用状況について重要な事項をご説明しております。

休

海外休業日 (申込不可日)

購入・換金の申込不可日をご案内しております。

請

請求目論見書

交付目論見書より詳細な当ファンドの情報をご説明しております。

運全

運用報告書 (全体版)

交付運用報告書より詳細な運用状況をご説明しております。

販

販売用資料

目論見書を補完する内容をご説明しております。交付目論見書と併せてご覧ください。

月

最新月次レポート

当ファンドの運用状況を月次でご説明しております。

本報告書作成時点のものを掲載しております。